

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成27年度第3回)

日時：平成27年11月27日（金）午前9時30分～10時45分
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について（資料1）

4 協議事項

- (1) 第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園への御意見、御感想（資料2）

5 その他

- (1) 今後の日程について（資料3）
- (2) 予算の執行状況について（資料4）
- (3) 手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機について（資料5）

6 閉 会

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿
(平成27年度第3回)

役 職	所属 ・ 役職名	氏名 (敬称略)	出 欠 (代理：敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部長	松田 佐恵子	出
委 員	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 福祉・労働委員会委員長	諸家 紀子	欠
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	出
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事	杉本 新二	出
	鳥取県教育委員会事務局教育次長	小椋 博幸	出
	鳥取県高等学校長協会会長	藤原 辰広	出
	鳥取県私立中学高等学校長会長	山内 晃	出
	鳥取県立鳥取聾学校長	藤田 則恵	〔 教諭 霜村 新 〕
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	出
	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	欠
事務局	障がい福祉課長	小林 真司	/
	障がい福祉課社会参加推進室 室長	鈴木 俊一	
	障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐	岡村 弘美	
	障がい福祉課社会参加推進室 係長	安永 孝文	

「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の開催について

平成27年10月7日
障がい福祉課

全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げその表現力を競う全国大会「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を以下のとおり開催しました。

1 大会概要

- (1) 日時 平成27年9月22日(火・休) 9:30～16:30
 (2) 会場 米子市公会堂(米子市角盤町2-61)
 (3) 主催等 主催：手話パフォーマンス甲子園実行委員会
 共催：鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
 (4) 内容
 ア 出場チーム演技(20チーム。手話を使ったダンス、歌唱、演劇、落語など。)
 司会：早瀬憲太郎さん(2015年3月までNHK「みんなの手話」に講師として出演)
 今井絵理子さん(「SPEED」「ERIHURO」メンバー、2010年NHK「みんなの手話」司会)
 イ ゲスト演技
 HANDSIGN(ハンドサイン：手話とダンスを融合させたパフォーマンスグループ)
 ウ 審査発表、表彰、総評
 (5) 来場者数 約1,550名(サテライト会場等を含む。)

2 審査結果

- (1) 審査結果
 ア 優勝 奈良県立ろう学校[奈良県](5名：演劇) ※昨年：審査員特別賞
 「イマジン」をテーマに、ろうの世界を身体表現で伝え、会場の感動を誘った。



<表彰式>



<演技>

- イ 準優勝 三重高等学校、松阪工業高等学校、^{おうか}相可高等学校[三重県](6名：ダンス)
 ※昨年：第3位
 ウ 第3位 クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス[東京都](8名：歌・ダンス)
 エ 審査員特別賞 ^{たつるはま}田鶴浜高等学校[石川県](5名：演劇・歌) ※昨年：優勝
 オ 全日本ろうあ連盟賞 奈良県立ろう学校[奈良県]
 カ 日本財団賞 奈良県立ろう学校[奈良県]、鳥取聾学校[鳥取県](6名：演劇・歌)
 (2) 審査方法
 ・ろう者の審査員3名：「手話の正確性・わかりやすさ」「演出力・パフォーマンス度」を審査
 ・聞こえる人の審査員3名：「総合的な表現力」を審査
 (3) 表彰関係
 ア 優勝チームに優勝旗と賞状、個人に金メダル(砂のレリーフ)と副賞(タブレット型端末)を授与。

あわせて全日本ろうあ連盟から「全日本ろうあ連盟賞」を、日本財団から「日本財団賞」を授与。

イ 準優勝チームに盾、賞状及び副賞（鳥取県特産品）、個人に銀メダルを授与。

ウ 第3位のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）、個人に銅メダルを授与。

エ 審査員特別賞のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）を授与。

オ 鳥取県内の最上位チームに、日本財団から「日本財団賞」を授与。

カ 出場選手全員に、鳥取砂丘の砂を使ったフォトスタンドを進呈。

(4) 出場チームの状況

応募 47 チームから選出された予選通過 19 チームと開催地枠 1 チームの計 20 チームが出場

北海道：1、東京都：3、神奈川県：2、石川県：1、愛知県：1、山梨県：1、三重県：2、
京都府：1、大阪府：1、奈良県：1、鳥取県：3、福岡県：1、熊本県：1、沖縄県：1
計 20 チーム（14 都道府県）

3 佳子内親王殿下の御臨席

大会には佳子内親王殿下に御臨席いただいた。開会式においておことばを賜るとともに、全チームの演技を御覧いただいた。佳子内親王殿下の初めての手話によるおことばをいただいたこともあって、大会後、全国のメディアで多く取り上げられた。

大会前日の交流会においては、各出場チームの代表者と御歓談いただいた。



<佳子内親王殿下おことば>



<交流会の様子>

4 次回の開催について

来年度の第3回大会の開催については、今後、実行委員会において検討する。

今後、出場チーム、関係者等の意見をとりまとめ、次回大会に反映させたい。

5 その他

(1) 大会前日には米子全日空ホテルにおいて交流会を開催した。

(2) 大会の様子について、公式チャンネル（YouTube）にて生中継（ライブ配信）を実施した。

(3) ホールでの観覧は入場自由としていたが、開場後間もなく場内満席となり、入場できない方々がでてきたため、前庭広場にモニターを設置するとともに、米子市福祉保健総合センター「ふれあいの里」にサテライト会場を設営し、大会の様子を放映した。

(4) 前庭に「あいサポート・よなごマルシェ」を開設し、障がい福祉サービス事業所及び米子商工会議所青年部から 10 店舗が軽食（やきそば、クレープ等）やお菓子等を販売した。

(5) 1 階ホワイエで、鳥取聾学校写真部の作品のパネル展示、公式グッズの販売、鳥取県観光 PR ブースを実施した。

(6) ゲストパフォーマーであるハンドサインの楽曲「♪友達」を本大会の公式ソングに採用し、大会のフィナーレで、出場者等とともに手話を交えて歌を楽しんだ。

(7) JR 米子駅におもてなしブースを設置し、手話通訳スタッフとともに会場案内等を行った。

(8) 会場総合受付及び JR 米子駅おもてなしブースに音声文字変換システムのタブレットを設置し、聴覚障がい者への対応の充実を図った。

第2回大会に係る企画推進会議委員の皆様のご意見・ご感想

平成27年11月27日
企画推進会議（平成27年第3回）

良かった点

【来場者】

- ①多くの来場者があったこと。
- ②非常に盛り上がったこと。
- ③感動的なパフォーマンスを多くの混乱者が共有できたこと。

【演技】

- ①演技のレベルが高かったこと。
- ②障がいの有無にかかわらず、高校生による様々なジャンルの手話パフォーマンスが非常に感動的だった。
- ③熱心な演技を披露してくれた。

【ゲスト】

- ①ゲストパフォーマンスが良かった。

【運営】

- ①円滑に運営が行われたこと
- ②第1回に負けないエネルギーを要されたと思う。準備作業は大変だったと思うが、連日の激務、お疲れ様でした。大会は大成功だったと思う。
- ③パブリックビューイングの設置は適切な対応だったと思う。
- ④サテライト会場があったこと。
- ⑤会場内にスタッフが配置され、来場者の案内ができていた。
- ⑥大会開催の時間中、無料で市役所の駐車場を利用できたこと（利用時間の延長の対応を含め）。

【司会、進行】

- ①大変スムーズで好感が持てた。
- ②時間通りに大会が進行した。

【制度】

- ①参加チームへの交通費や宿泊費の助成があるので、各チームとも大会に参加しやすかった。

【交流会】

- ①様々な高校生と積極的に話をすることができたこと
- ②佳子内親王殿下や、司会の今井さん、早瀬さんとお話できたこと。生徒にとって貴重な機会となるものだった。

改善すべき点、工夫が必要だった点

【来場者】

- ①入場制限がかかったこと。入場できない人が多く出てしまった。特に、わざわざ県外からの来県していただいたのに入場できなかった方がいたことは、大変残念だった。
- ②整理券方式にして確実に観覧できるようにした方が良かった。
- ③事前に入場できない場合、パブリックビューイングになることを事前に周知すれば混乱を防ぐことができたと思う。
- ④高校生用の観覧席（スペース）があると良かった。
- ⑤入場を待っている観覧者への情報提供が不十分。入場制限の周知が必要。（例えばプラカードでどこから制限がかかるのかを示す など）手話通訳者が不足していた（当日、手話通訳者が会場外にほとんどおらず、奉仕員が通訳を行わざるを得ない状況になった）。
- ⑥入場制限後、①このまま並び、②会場前の小型モニターで鑑賞、③サテライト会場（ふれあいの里）の大型モニターで鑑賞の3つ選択肢があることを事前に看板等で掲示したほしい。また、スピーカーでのアナウンスはろう者には伝わらない。
- ⑦入場を待っている観覧者が脱水症状や熱中症、熱射病にならないように、あらかじめテントや飲料を用意しておくべき。

【会場】

- ①会場の収容人数が少ない。より広い会場での開催を希望する。
- ②優先席の対象者がどんな方なのか分かりにくかった。
- ③託児所は（ふれあいの里）ではなく、会場内に設置した方が利用しやすい。来場者へ周知しづらく、行き来が保護者の負担となる。
- ④来賓席に一般観客が来た。来場者への周知が必要。
- ⑤女子トイレが1箇所しかなく、不便だった。
- ⑥ひまわり分校用の来賓席に空席が目立った。

【演技、表彰】

- ①演技時間をランプやモニター等で分かりやすく表示してほしい（特にろう学校、観覧者向け）。
- ②演技内容が様々あるので、部門別の表彰もあってもよいのでは？
- ③頑張っている生徒に向けて、様々な賞を用意しては？（例：努力賞、ユーモア賞 など）

【映像、スクリーン、照明】

- ①映像の手話が見にくかった。もう少し大きいスクリーンを用意してほしい。
- ②日本財団 尾形理事長の挨拶の際、手話通訳がスクリーンに表示されなかった。
- ③舞台両脇のスクリーンの下の照明は不要。照明そのものを見ることになってしまい、まぶしい。
- ④暗いうちに演技（手話で挨拶・説明）が始まった高校がいくつかあった。明転のタイミングが遅い。
- ⑤演技中の照明が全体的に暗かった。手話がよく見えなかった。

【手話通訳】

- ①高校生のインタビューの際、会場への手話通訳がなかった。
（今井さんの通訳は早瀬さんに向けたものだった。）
- ②表彰式でステージ上の聞こえない生徒への手話通訳を配置すべきだった。（実際は舞台下に配置。）

【司会、ゲスト、審査員】

- ①今井さんの服装がキラキラしたシルバーの衣装で、手話が見にくかった。
- ②審査がダンス系などに偏っていないか？パフォーマンスの幅が広がっており、審査員の選定の再検討をお願いしたい。

【ボランティア】

- ①手話スタッフの声掛けが遅かった。
- ②手話スタッフ用のTシャツが配付されるとの情報提供が遅かった。
(説明会では白ポロシャツの指示があったため、わざわざ購入した人もいた。)
- ③当日のスタッフ資料がボランティア全員の手に渡らなかった。
- ④業務のほとんどの内容が統括者に確認しなければ対応できない状況だった。ボランティアへの指揮命令系統がはっきりしていなかったことが原因ではないか？

【リハーサル】

- ①開始のタイミング、指示する教員やタイムキーパー、審査員の位置、照明や音響のタイミングなどは十分確認できなかった。
- ②運営側とリハーサルを担当する舞台スタッフで、意思統一が図られていたか疑問。

【来賓】

- ①来賓の数が多し。来賓の占める割合が大きく、一般の来場者の席の確保が不十分だった。
- ②登壇される石野理事長、尾形理事長には、事前に動線等を説明しておくべきだった。直前になって舞台裏での説明は失礼。

【交流会】

- ①アトラクションが注目されていなかった。
- ②手話通訳の映像について、最初、通訳者を横から撮影した映像が流れた。その後、正面から撮影するようにしたが、手振れして、いずれも手話が分かりにくかった。
- ③リハーサル会場から交流会の会場まで、高校生の荷物を持つての移動は大変そうだった。
- ④司会者が手話通訳中に通訳者に話しかけてきたり、通訳者が登壇する前に話し始める場面が多かった。

【運営】

- ①委託業者にも企画推進会議にオブザーバー参加してもらう必要があったのでは？(企画推進会議委員や委託業者間のコミュニケーション促進、意思統一を図り、より円滑な大会運営を図るため。)
- ②ろう者の専門家の配置、活用により、ろう者の意見、視点を大会に反映を図る。また、企画推進会議委員をスタッフとして活用させ、専門知識を大会に反映させる。
- ③ろう者と手話ができないスタッフのコミュニケーションのためのツールをスタッフで用意させた方が良かったのでは？
- ④米子駅と米子市公会堂を結ぶシャトルバスの運行時間について、予定と実態が合っていないかった。

【その他】

- ①事前に関係者に入場を相談したところ、スタッフが足りないことが理由で盲ろう者の入場は難しいと断られたようなことがあったと聞いた。

その他、ご意見・ご感想

- ①第1回大会より良くなった。第3回大会に向けて、もっと良い大会になるよう頑張っていきましょう。
- ②スタッフの皆さんは、大変にご苦労されたと思います。お疲れ様でした。
- ③演技者、観客、スタッフに一体感のある大変素晴らしい大会だった。一般の高校生にも感動を味わう機会があると良いと感じた。
- ④来年のゲストパフォーマーは、ろう者のグループを選定していただきたい。
(例：岐阜ろう者劇団「いぶき」、筑波技術大学ダンスグループ「ソウルインプレッション」)
- ⑤2日間の委員の行動(タイムスケジュール)が事前に文書あるいはメールで連絡があれば、動きやすかったと思う。
- ⑥演技動画の公開を早くお願いしたい。
- ⑦スクリーンの使用、演技補助とならないか？また、映像と舞台の相互演出は可能か？
- ⑧大会運営委託業務の入札にあたり、以下の要件を設定すべきでは？
 - ・鳥取県手話言語条例第7条を遵守すること
(事業者は、ろう者が利用しやすいサービスを提供し、ろう者が動きやすい環境を整備するよう努めるものとする。)
 - ・障がい者の法定雇用率(障害者の雇用の促進等に関する法律)を達成していること
 - ・手話のできる職員あるいは手話通訳を設置していること
- ⑨実行委員にもマニュアルを配付した方がよい。また、大会当日、それぞれ運営に協力できることがあるので、役を振るようなことも検討してほしい。

資料 3

全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成27年11月27日現在

【平成27年度】

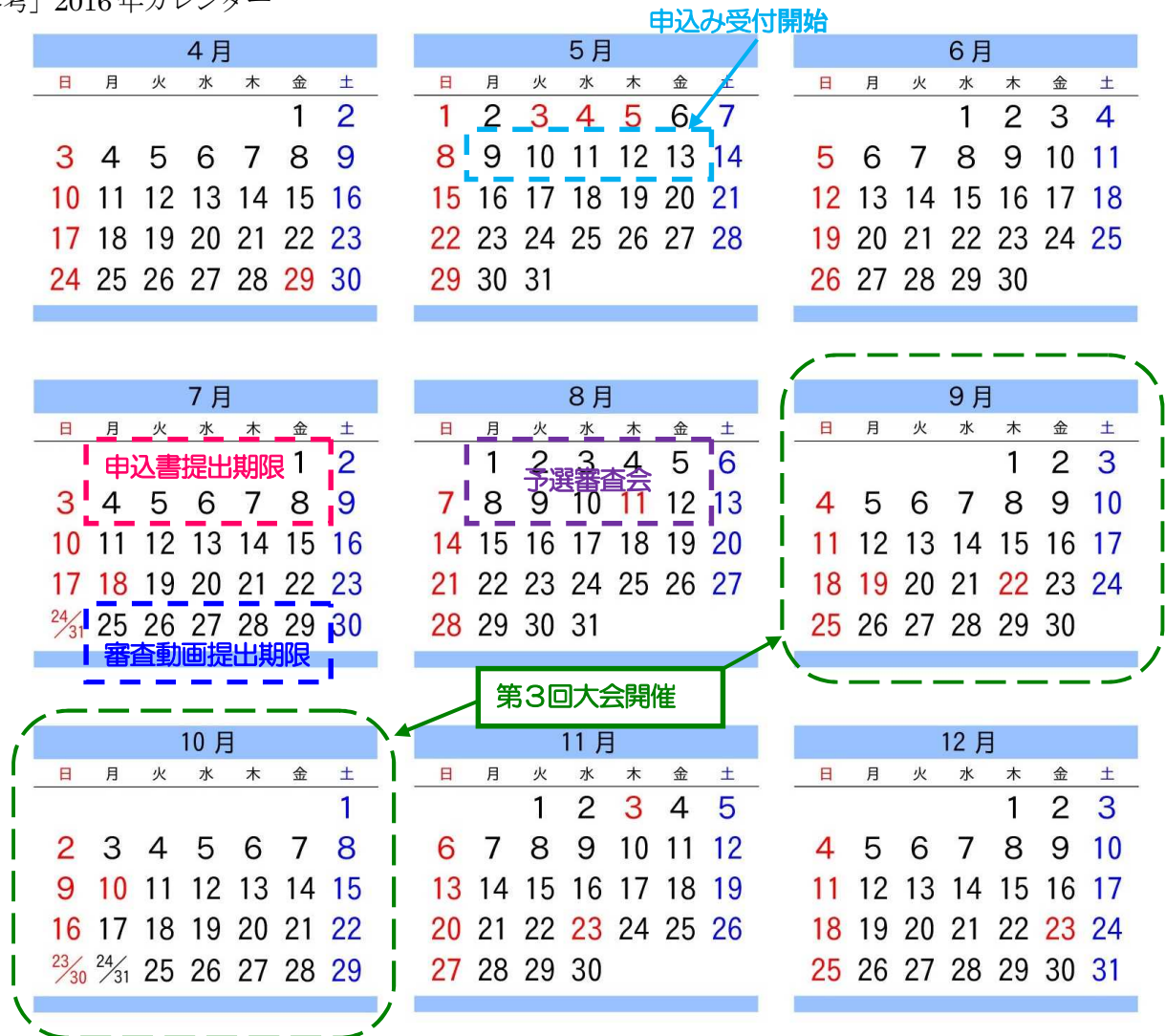
日 程	内 容	備 考
平成27年3月	大会チラシ送付	全国の高等学校、特別支援学校
	大会チラシ、ポスター送付	・全都道府県 (障がい福祉担当、教育委員会) ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成27年5月11日	参加申込み受付開始	
平成27年6月15日	JR 主要駅でのデジタル広告開始	鳥取駅、米子駅、松江駅、出雲市駅
平成27年7月3日	第1回企画推進会議	実施計画、申込み状況、 予算・決算、準備状況
平成27年7月10日	参加申込み期限	47チーム(50校)の応募あり
平成27年7月29日	予選審査会	とりぎん文化会館 本選出場20チームを選出
平成27年8月4日	予選審査結果通知	
平成27年8月31日	第2回企画推進会議	予選審査結果、実施計画、準備状況
平成27年9月10日	ハンドサイン スクールプロジェクト	米子西高等学校で実施
平成27年9月21日	第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 交流会、リハーサル	交流会：米子市公会堂 リハーサル：米子全日空ホテル
平成27年9月22日	第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本選	米子市公会堂
平成27年11月27日	第3回企画推進会議	第2回大会開催結果の報告、意見交換
平成28年1月中旬	実行委員会総会	開催結果、大会総括、専決処分の報告、 来年開催日程決定、補正予算
平成28年2月中旬	第4回企画推進会議	第3回大会基本計画、開催要項

【平成28年度】

日程	内容	備考
平成28年5月中旬	第3回大会参加申込み受付開始	
平成28年7月上旬	第3回大会参加申込み期限	※参加申込書の提出のみ。
平成28年7月下旬	予選審査用動画（映像）提出期限	※夏休み中の練習時間の確保も考慮
平成28年8月上旬	予選審査会、結果発表	※開催期間1日
平成28年9～10月	第3回大会（本選、リハーサル）	※開催日、場所は未定。

※企画推進会議の開催日程は、次回以降に検討する。

[参考] 2016年カレンダー



資料 4

平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会予算執行状況

平成27年11月27日現在

(1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算見込み額	備考
助成金	27,870,000	27,870,000	・(公財) 日本財団助成金
負担金	7,575,000	7,575,000	・鳥取県負担金
協賛金	1,000,000	1,038,713	・協賛金
雑入	938	122,334	・寄付金 ・預金利息(上半期分) ・前年度繰越分(預金利息)
計	36,445,938	36,606,047	

(2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算見込み額	備考
実行委員会運営費	698,000	698,000	・委員旅費 ・事務局運営費 等
広報宣伝費	4,096,000	4,096,000	・チラシ、ポスター経費 ・広告費 等
大会準備費	1,467,000	1,467,000	・関係機関との連絡調整費 ・大会運営委託業者選定審査会経費 ・予選審査会経費 等
大会運営費	30,184,938	30,345,047	・大会運営委託費 ・参加者旅費 ・審査員、ゲスト等出演費 等 ・交流会経費
計	36,445,938	36,606,047	

手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機の設置について

【概要】

手話パフォーマンス甲子園の活動を応援する自動販売機で、コカ・コーラ ウェスト（株）から提案があったもの。以下の効果が期待できる。（詳細は別紙にて。）

(1) 大会のPR

自動販売機が広告塔となって、大会をPRすることができる。

(2) 活動支援金

自動販売機の売上金の一部（最大20%）が活動支援金として、手話パフォーマンス甲子園実行委員会の収入となる。（大会への募金箱という位置付け。）

【自動販売機のデザイン】



資源回収BOX側面

資源回収BOX本体

自販機本体

自販機側面

【設置場所】

鳥取県聴覚障害者協会の協力の元、現在、鳥取市及び倉吉市と設置に向けた協議を行っているところ。また、鳥取県聴覚障害者協会（米子市鳥取県米子市旗ヶ崎6-19-48）にも設置できないかコカ・コーラ ウェスト（株）に検討を依頼中。

なお、現在、鳥取市文化センター（鳥取市吉方温泉3-701）の1階に1台設置できそうな見込みである。（鳥取市に使用財産使用許可の申請中。）

【依頼】

皆様の所属される団体等又は設置の御協力いただける企業等があれば、是非、御紹介ください。また、自動販売機のPRや設置に向けた働きかけ等にも御協力をいただければ大変幸いです。

自販機から飲料を購入いただくことで売上金の一部が支援金となって「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」をサポートします、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」支援自販機の設置推進に是非ご協力ください。

<自販機イメージ>



「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」支援自販機ってなに？
「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」支援自販機は通常の自販機と商品も値段も同じ。
違うのは、売り上げの一部（最大20%）が、全国手話パフォーマンス甲子園のために提供されることです。
自販機の顔をした、力強い「募金箱」です。

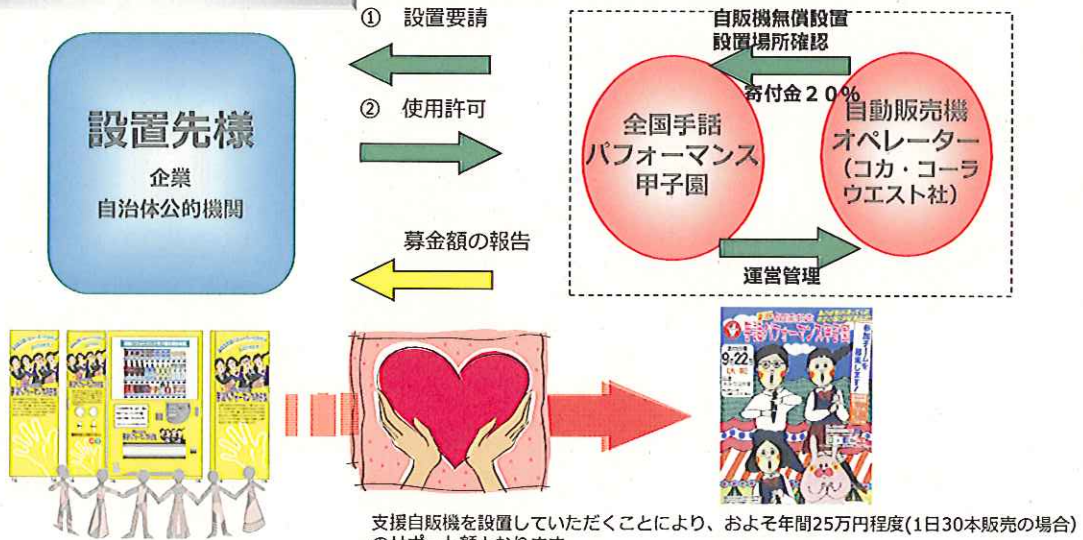
「全国手話パフォーマンス甲子園」ってなに？
鳥取県は、ろう者と聞こえる人がお互いを理解し共生する社会を築くため、平成25年10月に全国初の「手話言語条例」を制定しました。
この条例の理念に基づき、手話の普及や手話を通じた交流の推進、地域の活性化を図ることを目的として、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げ、その表現力を競う「手話パフォーマンス甲子園」を開催しています。
第一回 2014年11月23日開催（鳥取）
第二回 2015年9月22日開催予定（米子）

- ◇目的
 1. 「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を資金面でサポートしていただく。
 2. 自販機のオリジナルデザインにより鳥取県民に対し、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」のPRを行う。
- ◇方法
 1. 募金・・・支援自販機を全国高校生手話パフォーマンス甲子園への募金箱と位置づけ、支援いただける企業様や行政施設に設置していただき、売上金の一部を「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」への募金をしていただく。
 2. PR・・・自販機にはオリジナルデザインを施し、支援目的を明記する。
- ◇機器管理

商品の詰め替えから空容器回収まで、全ての作業を提携飲料メーカー（コカ・コーラグループ）が責任をもって実施、設置先様に一切のお手間をおかけいたしません。

「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」支援自販機設置協力をお願い

支援自販機のフロー（ご紹介後）



<自販機設置の手順>

- ① 支援者／支援企業様からの自販機設置ロケーションの紹介
- ② 自販機設置ロケーションの確認。
*自販機の設置につきましては1日20本程度のご利用が見込めるロケを設置の目安とさせていただきます。
- ③ 諸条件（募金額・施設使用料など）の決定
- ④ 支援自販機の設置

「全国手話パフォーマンス甲子園」をサポート頂きますようお願い申し上げます

<支援自販機のお問い合わせ>
〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地
手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局
（鳥取県 福祉保健部 障がい福祉課内）
電話 0857-26-7682